

# 第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和2年度

施策コード	431	施策	青少年の健全育成
管理事業	青少年活動サポートプラザ事業	所管部局	地域教育部

1	所管室課	青少年室	事業名	青少年活動サポートプラザ管理事業
事業概要 青少年活動サポートプラザ管理(指定管理者施設管理)				
活動実績 青少年又は青少年団体が安心して学び、活動し、交流できる場を提供するとともに、その成長または発展に応じた支援を目的として、子育て青少年拠点夢つながり未来館青少年活動サポートプラザの施設の貸館業務及び維持管理を行いました。				
(1)貸室利用件数 令和2年度…7524件 令和元年度…11,740件 平成30年度…12,924件 (2)貸室利用者数 令和2年度…63,452人 令和元年度…148,733人 平成30年度…169,030人 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策による休館等の対策のため、利用者数は減少しています。 利用者アンケートの実施等により、利用者のニーズを把握し、事業運営に反映させました。令和2年度には、更なる利便性の向上のため、貸室予約システムについて青少年活動サポートプラザの独自システムから、本市共通の公共施設予約・照会システムに移行しました。		年度	令和2年度	評価の視点 ※課題があるものは■ <input type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 持続可能性 今後の実施計画の方向性・内容 拡充 青少年交流活動支援業務委託の指定管理業務への統合による拡充
		決算額(千円)	76,790	
		一般財源の比率(%)	93.3	
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題 平成26年度から貸館業務及び施設維持管理業務の一部に指定管理者制度を導入し、効果的・効率的な施設管理を行い、市民サービスの向上を図っているところですが、更に利用者のニーズに対応した、より魅力的な事業展開を行う必要があると判断し、委託業務である交流活動支援業務を指定管理者の業務範囲とする条例改正を行いました。		

2	所管室課	青少年室	事業名	青少年活動サポートプラザ主催事業
事業概要 青少年活動サポートプラザ運営				
活動実績 【子育て青少年拠点夢つながり未来館の開館10周年記念及び市制施行80周年記念に係るイベント実施による拡充】 (1)青少年交流活動支援事業 青少年の自立や社会参画を促すことを目的とした居場所づくりや青少年の自主的な活動の支援、各種イベントの企画運営を行いました。青少年交流活動支援におけるイベント参加者数 令和2年度…1,117人 令和元年度…7,433人 平成30年度…5,299人 学習室の提供 令和2年度…17,514人 令和元年度…23,366人 平成30年度…22,081人 (2)青少年委員会の開催 青少年活動サポートプラザにおいて、青少年の立場でより良い施設とするための意見を聴取し、イベントの企画・運営など幅広い活動を実施しました。(延べ人員) 令和2年度…44人 令和元年度…126人 平成30年度…71人 (3)吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館の開館10周年記念及び市制施行80周年記念に「ゆいびあ」とみんなの10周年！」事業を実施 記念講演会や10周年記念作品の展示、クイズラリーなどのイベントを行いました。 参加者数…746人				
(1)新規相談件数 令和2年度…192件 令和元年度…208件 平成30年度…222件 (2)社会参画につながったケース 令和2年度…56件 令和元年度…56件 平成30年度…35件 (3)他機関協議の実施回数 令和2年度…734回 令和元年度…375回 平成30年度…265回 (4)アウトリーチ(訪問支援)の実施回数 令和2年度…317回 令和元年度…276回 平成30年度…128回 相談内容が複雑化・複合化し、一つの機関だけでは解決できない課題が増加しているため、子ども・若者支援地域協議会を活用し、連携した支援を実施しました。 また、子ども・若者支援地域協議会実務者研修を実施し、支援者同士が互いに顔の見える関係を築き、課題を共有することで、関係機関が連携し、支援者・支援機関が孤立せず継続的に支援を行える体制づくりに繋がりました。		年度	令和2年度	評価の視点 ※課題があるものは■ <input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 持続可能性 今後の実施計画の方向性・内容 縮小又は再構築 青少年交流活動支援業務委託の指定管理業務への統合による縮小
		決算額(千円)	17,358	
		一般財源の比率(%)	99.9	
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題 平成23年の開館以来、青少年を取り巻く社会情勢は大きく変わりました。そんな中で、青少年が自ら考え、主体的に活動し、安心して過ごすことができる環境づくりを一部委託も交えて、整備してきました。青少年がボランティアや年代を超えた様々な人々との交流をとおして、自己肯定感や主体性、責任感等の成長が見られるなど、一定の成果をあげることができました。 更に利用者により充実した事業運営をめざし、交流活動支援業務を指定管理制度へと移行します。		

3	所管室課	青少年室	事業名	青少年活動サポートプラザ相談事業
事業概要 青少年活動サポートプラザ相談				
活動実績 子ども・若者育成支援推進法に基づく子ども・若者総合相談センター(ぷらっとるーむ吹田)として、相談を実施しています。				
(1)新規相談件数 令和2年度…192件 令和元年度…208件 平成30年度…222件 (2)社会参画につながったケース 令和2年度…56件 令和元年度…56件 平成30年度…35件 (3)他機関協議の実施回数 令和2年度…734回 令和元年度…375回 平成30年度…265回 (4)アウトリーチ(訪問支援)の実施回数 令和2年度…317回 令和元年度…276回 平成30年度…128回 相談内容が複雑化・複合化し、一つの機関だけでは解決できない課題が増加しているため、子ども・若者支援地域協議会を活用し、連携した支援を実施しました。 また、子ども・若者支援地域協議会実務者研修を実施し、支援者同士が互いに顔の見える関係を築き、課題を共有することで、関係機関が連携し、支援者・支援機関が孤立せず継続的に支援を行える体制づくりに繋がりました。		年度	令和2年度	評価の視点 ※課題があるものは■ <input type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 持続可能性 今後の実施計画の方向性・内容 拡充 オンライン相談の実施
		決算額(千円)	33,185	
		一般財源の比率(%)	51.6	
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題 ひきこもり、ニート、不登校、虐待など、青少年が抱える課題が複雑化・複合化しており、自立に向けて関係機関等との連携によるチームでの支援が重要となっています。 支援を必要とする青少年の早期発見・早期支援、切れ目のない支援のための体制づくり等が必要であり、アウトリーチや関係機関との協議等を積極的に進めています。今後は学校との連携を更に強化するとともに、オンライン相談等についても検討していきます。		

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名